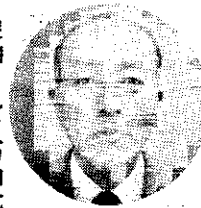


ばんが

炉辺に想う

教頭 園田 秀利



突如として石油危機に見まわられて、石油に依存する関連産業……その他、国を挙げて(大げさだが)、やれ何が無、こんどは〇〇が無くなるそうだ、人は右往左往してその品を求めて走るきようこの頃、四十年ぐらい前の我が家の生活が、なつかしく想い出される。

昔の農家は、事、食べるものだけは自給自足、衣料までも、蚕をかい、糸をとり、木綿糸を買ってきて織機で布を作り上げていた。

私宅の玄関に、昔我が家で使っていた濃茶色のタヌキ腹の「醤油がめ」をおいて、年が、約百年間にわたって、年中塩から自家製造の「醤油」

を入れて、我が家の生命を支えてくれたことを思うと、お役ばらいの今、つくづく、貧相な土がめではあるが、いとおしさを覚えてくる。

冬近くなると、隙間だらけの農家のつくりは、今の文化住宅とやりに比べると、涼しさとおりにして、八方から寒い隙間風が、吹きこんで、寒いものだった。夕食をすまして、家族は、「いろり」のそばに集まり、自分の山の枯木を炉にたいて、暖をとり、仕事着のつくろいや、ぞうり作りのかたわら、ラジオも無い、新聞もない、日暮しのたのしみは、お互いの語らいの中にそれを求めたものだった。

豊かな生活(経済的に)でない故に、現金の支出に對しては、必要欠くべからざる時以外は、心して出づるを制し

報行部
刊報所
友報部
刷印刷所
小報部
印つる
島三小育友会報
発刊部
廣報部
印つる

〔第39号〕

家庭経済の均衡をはかっていたように思う。

「いろり」、それは家族にとつて、レクリエーションの場であり、明日の農作業の打ち合せの場でもあり、時には、来客接待の場でもあり、「いろり」をかこみ、家族同志の意志疎通も十分なされた。しかし、今の生活と比べてみると、まことに隔世の感がする。

昔と今を比較して、どうこういうつもりはないけれども日々を生きていく真剣さは、願みて乏しい昔の人たちが、真剣だったのではなからうか。

物質が豊富で、生活が合理化され、便利至極な、諸々の機器の中で生活する私たちではあるが、何かそこに足りな

いもの、それが何であるかを見過してはいないだろうか。私の今住んでいるところは九十九ホテルの十字路から、雲仙のほうへ約三百メートルそばで、入り口のところに樹令百年を越えたと思われる

老梅が一々ある。この梅の木も、約百余年、我が家を見守ってくれている。少し、は入って、玄関の庭先に、老梅におとらぬ大きな洪柿が一本……梅の木や、柿の木を眺めながら、父や、祖父の面影を時折しのぶこともある。

祖父の両親の代に、安中の木場のほうから、今のところに、移り住んだのだと聞いている。その時代は、山の中(今もまわりは山)の、南面の傾斜地で、日当りがよく、人里離れていたもので、人が集まってはトバクをしていたそうだと祖父は話していた。

山の中に、生活の場を求め自ら汗して山を開き、屋敷を作り、さらに、畑を開墾したという。

昼間は、町に賃働きに出て夜月明を利用して、開いたという畑が、今も残っている。屋敷のまわりに、苔むした石垣があるが、丸石積みは無雑作な石垣も、ブロック塀に作りかえようとは思わない。我が家の先代が積み上げ、家族とともに喜怒哀楽を共にしてきた庭先の、石のひとつつひとつに、限らない愛情を覚えるが故に……

私の育った頃は、半徑三百メートルぐらゐの範囲内に、隣家はなく、それこそ山家の一軒家であった。「ちようちん」と「ランプ」は、それこそ夜の生活に欠くことのできない照明器具であった。今も

時折張り替えながら、紋入りの手提ちようちんを、大事に記念のしるしとして残している。

今は、自宅のすぐ横を国道五十七号線がとおり、まわりにも次々と家が建ち、昔の辺境変じて、近代住宅地へと変わりつつあるが、時々昔の一軒家時代がなつかしくなることもある。

人は、先代があるが故に、自分の存在があり、また子どももあることを想いながら……小学生のときの国語教科書(三年)にのっていた次の詩が想い出される。

春の遊びの楽しさかたる居ならぶ子どもは
指を折りつゝ
日数かぞえて 喜び勇む
いろり火は ところとろ
外は吹雪
現代の生活の中から、すでに「いろり」は消えてしまった。自在燵などいっても、今の子どもたちには、ピンとこない。だんだんと、石油がなくなってくる、また「いろり火」が必要になるかもわからない。

移り行く、時の流れに、しばしたたずみ、往時を想い、いつまでも、心の「いろり火」を燃やし続けていきたいものだと思ふ。



小さな小さな

キツネ

一ねん みやぞえけんじ
 ぼくは、おはなが 見つけ
 た ふるいたげづつを さわ
 っている おとうが、おこ
 ったので どうしてかなあと
 おもいました。

読書感想文

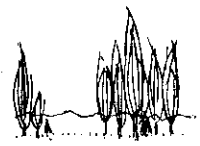
市内特選の部

おはなのように むねが、
 ときどきして
 おとうと、おか
 あが たげづつ
 のわけを、はな
 すところを よ
 みました。それ
 は、くだギツネ
 さまと いう、
 小さな小さなキ
 ツネが、はいっ
 ていて、うちを
 たすけてくれる
 そうだからです。

これは、ひみつで、むらの人
 にしられては、むらはずれ
 にされるほど、だいじなも
 のでした。

おはなは、じぶんたちだけ
 が よくなる ずるいかんが
 えで、こそこそくらすなんて
 いやだと おもいました。

ぼくは、おはなが かわい
 そうに なりました。でも
 目に見えないと、きいていた
 わんぱくで、いたずらな
 すぎたのかおに、そっくりな
 くだギツネに、あえたので、
 ぼくは、ほっとしました。
 おはなが、キツネと、おは
 なし、してみると、キツネは
 しっぱいばかりして、なに
 もできず、かみさまと、いわ
 れて、ごちそうになるのが、
 いやで、ひろい山や、のに
 いて、しまおうと、してい
 るのが、わかりました。
 おはなは、うちにかえり
 このことを、はなしましたが、
 おとうや、おかあは、ほんき
 にせず、たげづつを、おが
 んでいるのを、おもったら、ぼく
 は、おかしくなりました。
 それからは、おはなは、小さ
 なキツネを、おもいうかべて
 は、たのしく、くらしている
 だろうと、おもいます。



かわいいそうなのぞう

三年 上田理加

どうぶつえんの人も、ほん
 とうは、ころしたくなかった
 のに、せんそうのために、か
 わいがっていたぞうをころさ
 なくてはならなくなつたので
 とてもかわいそうでした。
 ぞうは、「せんそうで、ど
 うぶつえんのおりがやられて
 しまつて、動物が町に出たら
 たいへんだ。ころした方がよ
 い。」と、いうりゆうで、こ
 ろされることになりました。
 わたしは、ほんとうにころさ
 れてしまうのかなあと、思っ
 て、しんぱいしながら読みまし
 た。もし、わたしがどうぶつえん
 の人だったら、とてもかわい
 がっていたぞうをころせない
 にちがいありません。ぞうは
 助かりたいばかりに、よろ
 けるからで、げいをして、しん
 して、げいをして、しんでし
 まつた時は、とても、かわい
 そうでした。

せんそうは、あんなにも、
 かわいどうぶつを、ころし
 て、しまふのかな。せんそう

など一回も、なければよいの
 に、と思つて、ぞうや、その
 ほかのどうぶつが、かわいそ
 うでした。そして、もしも、
 わたしが、どうぶつえんの人
 で、かわいいうぞうをぜんぶこ
 ろしてしまつたのなら、どん
 なにかないでしょう。

わたしは、この本を読んで
 「どうして、せんそうには、
 かんけないかわいいうどうぶ
 つまで、ころしてしまわなく
 ては、ならないのだろう。か
 わいそうだ。」と何度も、思
 いました。そして、せんそう
 のない、へいわな暮らしはい
 いなあと思ひました。

※※※※※※※※※※

十五少年漂流記

を 読 ん で

六年 入江芳美

正義感あふれる十五少年た
 ちの無人島の生活を生き生
 き表わしたこの本を読んで、
 まず始めに少年たちの勇氣と
 智えにおどろきました。

まだ幼い子どもたちが二年
 という長い年月の間、助け合
 って、生きていくところはと
 ても感動しました。けれども
 やはり不安な気持ちと父母の

いるなつかしい故郷にいつこ
 くも早く帰りたいという願ひ
 は、みんなが心から願ひてい
 ることだと思ひました。

わたしは、この漂流記を読
 んで特にブリアンやゴードン
 の落ち着いた行動があればこ
 そみんなが心の一部にでも安
 心感をたもっていられたと思
 います。

それにこの話では、各自が
 持っている特技、性格がよく
 いかされていっていると思ひます。
 ゴードンのでき事に対して深
 く考える性格、ブリアンの明
 るく正しくみちびいてくれる
 勇氣、ドーバンの子どもばな
 れた銃のうでまえ、みんな
 が楽しみにしているモコのお
 いしい料理、みんなすばらし
 い少年たちだと思ひます。

始めは、ブリアンを目のか
 たきにしていたドーバンの行
 動はとても自分かたでと思
 いました。そしてこんな事
 これから先どんなに生活して
 いくのだろうとも思ひました。
 しかしブリアンや少年たちの
 行動によってみんなと仲よく
 なつた時は本当によかつた
 と思ひました。

けれど無人島のでき事は
 みんなの心に大きな不安をあ
 たえたと思ひます。あのおき
 みながい骨の発見、そしてお
 そろしい海賊たちがやってき

た時の胸いっぱいひろがった不安な気持ち、しかたのない時 イバンスやケートの出現はどんなに心強い事だったろうと思いました。

やっと島に平和がもどりふたたびあのなつかしい国へ帰る時の喜びは、二年間の苦しくまたおそろしかった思い出をふきとばしてくれたと思いをしました。

もしもわたしが十五少年たちの立場だったら、いったいどんな行動をとったでしょう。でもわたしたちには、こんな勇氣ある行動はできなかったと思いました。

この漂流記では苦しい生活の中にも無人島でしかあじわえない生活にうらやましくも感じました。めずらしい動物ステキなクリスマス夜の楽しい夜のひととき こんな時間があればこそおたがいの心と心が通じあえてそれが十五少年たちの国へ帰ろうという希望に続いたと思いました。

十五少年の団結と努力があればこそ子どもたちだけでもりっぱに生きのびられたと思います。

何回も読んでいるうちに、ますますこの漂流記からゆかいさ おもしろさがわかってくるようでした。

ないたあかおに

一ねん
うめばやししようこ

あかおにさんと あかおにさんは やさしい おにさんです。こころの やさしい おにさんが いるなんて、ほんとうに うれしく なりました。

読書感想発表会

— 島原文化連盟主催 10月21日 島原公民館 —

でも、こころの やさしいことを むらの人たちに なかなか わかって もらえなくて、こまわりました。あかおにさんの つのが、こわいのかしら、それとも、あかおにさんの ちからが、こわいのかしら。いやおにさんと きいただけで、こわいのです。わたしの、きいただけで、こわいのです。なぜかって、わたしの、しっている おにさんは、みんなわるい おにさん ばかりだったのですもの。でも、あかおにさんは、みんなと なかよく したかったのです。それで、たてふだをたてたのです。ところが、むらの 人たちは、ひとつも、しんよう、してくれなくて、あかおにさんが、かわいそうです。なぜかって、みただけで、にげてしまふの、だから、はらをたてて、しまったのです。わたしは、赤おにさんに、いっしょうけんめい、おうえん、しました。そんなときに、青おにさんが、きて、はげまして、あげました。ほんとうに、ほっと、しました。あかおにさん、ありがとう。あかおにさんが、赤おにさんの、きもちを、よく、しっけて、くれて、じぶんが、わるもの、になるなんて、ほんとうに、ありがとう。それで、まいにち、たくさんの、むらの、人たちが、あそびに、きて、みんなと、なかよく、なれて、あかおにさん、わたしも、うれしかったでしょう。わたしも、うれしくて、うれしくて、なみだが、でました。赤おにさんが、ほんとうに、しあわせに、なれて、こんな、に、すばらしいことは、ありません。でも、青おにさんは、どこ

キューリー夫人を 読んで

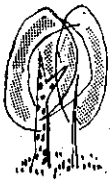
六年 坂本由美

「キューリー夫人」この本を開いた時、私の頭の中には、ラジウムを発見した科学者、そして、ノーベル賞を二回も受賞された人。それだけしかうかんできませんでした。

はずかしいことですが、ラジウムとは、何か。それすらも私は、知らなかったのです。しかし、私は、キューリー夫人と言う偉大な科学者を知ることが出来、女性の一人としてほこりを感じ、又、感動の波にのみこまれてしまったのです。

キューリー夫人をだんだん知るにしがたって、私の考えていた、単なるラジウムを発見した科学者でなく、人間的にも、あたたかさを感じたのです。

ロシア皇帝の支配に圧殺され、ゆがめられていたポーランドに生まれ育ったキューリー夫人。わずか十六才の身で祖国ポーランドの復興を助けることが、その時のキューリー夫人のゆめだったのです。この



強い愛国心。ポーランドの人々を愛し続けた深い人間愛。この願いは、キュリー夫人が物理の研究を続けるようになってからも、生涯変わらなかつたのです。

成功に達するまでの数々の困難を生きぬいてきたキュリー夫人。あらゆる貧乏のどん底の中でも、鉄の意志と気力がいじみているくらいに完ぺき好きな性格、信じられないくらい頑固さで勉強にかじりつき、一分いや一秒もおしんで、ただひたすらに勉強にうちこんだキュリー夫人。私に、キュリー夫人の百分の一もまねができるでしょうか？ そのつらい時代のことをキュリー夫人はこう詩に書いています。

つらいきびしい生活に
たえて
少女は学び続けた。
まわりにつどう若人達は、

ひたすらに
快樂を追い求めた。
少女のみひとり孤独の
中に生きて

心たのしく、
大らかであった。
時は流れ去り、
やがて少女は

知識と芸術の園を

去ろうとする。

灰色の人生の道に立って

日々のパンを

えるために――。

しかし その魂は

あのせま苦しい

屋根裏の一角を

なつかしむ。

黙々として学びはげんだ

静かな部屋を

運命の思い出で

いっばいのあの場所を。

しかし、恐るべき忍耐強さ

をもって、一九〇二年未知の

ものを征服したキュリー夫人。

私達は、キュリー夫人にく

らべれば、生活にも環境にも

めぐまれません。です

から、とうぜん、キュリー夫

人以上に、努力しなければい

けないのではないでしょう

か。キュリー夫人は、科学者

としてでなく二人の子の母とし

ても両立させ、どんなに苦し

い時でも生きぬいてきた。そ

れは、意志の強さと、愛と勇

気のみちあふれていたからで

はないでしょう

か。

今の世の中には、お金さえ

あれば、幸福をつかめること

ができ、人の心配より自分本

意にしか物を考えない人が、

たくさんいます。私もそのな

かまの一人かも知れません。

しかし、キュリー夫人は、ち

がいます。キュリー夫人が、

自分だけの体のことを考え

自分だけの幸福を考えたこと

があつたでしょうか。金銭欲

や名譽や地位への関心が、ま

ったくなかつたキュリー夫人

。キュリー夫人とその夫ビエ

ール氏の努力のたまものであ

るラジウムの特許さえとれば

どんなりっぱな実験室を建て

るお金も、ラジウムを買い入

れるお金もじゅうぶんに得ら

れたでしょう。しかし、それ

すらも、「ラジウムは、病人

の助けになるうとしています。

それから利益を求めるとは

できません」と、きっぱりい

い切り、「百万長者の夢のよう

な財産に永久に背中を向けて

しました。そのことばに私は

キュリー夫人の最高の愛情と

温さに感動したのです。

キュリー夫人が、病にたお

れるまでの六十七年間ささげ

ねがった「人類の幸福」「科

学の発展」を世界の科学者み

んなが、守り続けていたら、

あるいは、原水爆も平和の役

に立ってでしょう。これは

みにくい戦争のせいでしょう

か。「長崎」「広島」の悲惨な悲劇は、起こらなかつたでしょうと、あらためて考えさせられ、キュリー夫人の人間の偉大さが、ひしひしと身にしみて感じられました。私は、キュリー夫人のよう

校内辞書引き大会

(期日十一月二十六日)

辞書を利用することによつて語いを豊富にしたり、ことばを正しく、しかも興味深く学習することができ、さらに利用技術の向上もあわせて、はかることができます。

もっともだいたいなことは、学習の能率化を自学自習の態度を育成することではないかと思ひます。

例年四年生以上各学級五名選手が出て問題ととりくみ、力を競つた結果次の人が入賞しました。

六年	山本伸子
五年	山本由夫
四年	森本精一
三年	緒方良行
二年	佐藤美紀
一年	本多徹子
六年	石橋誠道
五年	小林裕子
四年	石橋誠道
三年	石本幸紀
二年	林田甲平
一年	吉田博治
六年	小島正生
五年	吉田博治
四年	石本幸紀
三年	岡野隆幸
二年	吉田竜一郎
一年	小林己佳
六年	名嘉めぐみ
五年	宮崎光代
四年	大町希美恵
三年	岩永延子
二年	亀山裕美
一年	村山和紀
六年	古瀬剛史
五年	下田玲二

市内読書感想画

特選者ぞくぞく

第十九回西日本読書感想画島原市内審査会が十一月二十六日におこなわれました。その結果たくさんの特選者を出したことをうれしく思ひます。

六年	下田玲二
五年	古瀬剛史
四年	村山和紀
三年	亀山裕美
二年	岩永延子
一年	大町希美恵
六年	名嘉めぐみ
五年	宮崎光代
四年	大町希美恵
三年	岩永延子
二年	亀山裕美
一年	村山和紀
六年	古瀬剛史
五年	下田玲二

うにもありません。しかし、お金であやつられるような人間には、ぜったいなりたくはありません。少しでも人々の役にたつ人間、社会人になりたいと願っています。

体育行事の記録

本年中に実施されました主な運動競技の記録を、広報を通じまして皆様方にお知らせいたします。

校内球技大会

期日 七月二十九日(日)
 種目 男子 ソフトボール
 女子 フットベースボール
 場所 男 (豊丘公園)
 女 (本校々庭)
 優勝チーム
 男子
 A パート(有馬舟津)
 B パート(浦田 上)
 C パート(下川尻南)
 D パート(霊 南)
 女子
 A パート(坂 上)
 B パート(川 尻)
 C パート(霊 南)
 D パート(新山西)

校内水泳大会

九月十一(火)・十二日(水)
 三年以上(三小プール)
 [各種目一位]

() は学年 ○ は新記録
 ・二五米自由型女子
 田中愛子(三) 二七秒四
 川勝京子(四) 二二秒二
 徳永直美(五) 一九秒〇
 ◎梅田恵子(六) 一七秒八

石本幸紀(三) 二二秒五
 ◎小林博幸(四) 一八秒四
 松本慎二(五) 一八秒五
 ◎中田博文(六) 一五秒八
 ・二五米平泳 女子
 松本直美(三) 二九秒二
 諸田厚子(四) 三一秒八
 牧 美保(五) 二七秒〇
 松下律子(六) 二五秒〇

◎安藤雄教(三) 二四秒〇
 松本成人(四) 二八秒〇
 ◎浜田浩四郎(五) 二二秒八
 村里和紀(六) 二二秒三
 ・五〇米自由型女子
 ◎川勝京子(四) 五七秒五
 徳永直美(五) 四六秒一
 ◎山崎佳子(六) 四二秒〇

男子

小島幹生(三) 五八秒二
 小林博幸(四) 四五秒〇
 中村勇二(五) 四二秒一
 中田博文(六) 三五秒〇
 ・五〇米平泳
 ◎安藤雄教(三) 五八秒〇
 梅田洋一(四) 一分一秒五
 浜田浩四郎(五) 五四秒八
 村里和紀(六) 五一秒〇
 (女)松下律子(六) 五八秒〇
 ・学級対抗リレー(一〇〇米)
 三年女子
 ◎五組 一分五五秒〇

男子
 一組 一分四一秒〇
 四年女子
 四組 一分五二秒二
 男子
 ◎四組 一分二〇秒〇
 (二〇〇米)
 五年女子
 三組 三分二一秒二
 男子
 五組 二分五三秒四
 六年女子
 三組 二分四三秒六
 男子
 五組 二分三一秒五

運動会記録

十月一日(月)

本校々庭

・学級対抗リレー(一位)

一年四組 一分三五秒四
 二年五組 二分五四秒〇
 三年一組 二分四四秒〇
 四年一組 二分三九秒二
 五年五組 二分三〇秒〇
 六年一組 二分二三秒八
 ・育友会町内対抗リレー
 一位

A パート

浦田 上

B パート 津 町

C パート 広馬場 上

D パート 桃 山

少年団町内対抗リレー

男子

優勝 霊 南

二位 浦田 下

三位 浦田 上

四位 下川尻南

五位 津 町

女子

優勝 霊 南

二位 下川尻南

三位 津 町

四位 栄 町

五位 湊新地

小体連記録

十月二十五日(木)於二小

四年生以上 (一位のみ)

・五〇米五年女子

佐藤美紀 八秒四

・一〇〇米六年男子

橋本徳彦 三分二六秒八

・ボール投五年女子

峰友幸子 三六米五五

・けんすい四年女子

入江美和 一分二秒四

男子

入江徳繁 一九回

五年男子 中村 光

三六回(新記録)

六年女子

児島由佳 一分三八秒

その他十一種目で二位、十三種目で三位を獲得した。

育友会町内対抗

バレー大会

十月二十一日(日)

於二小・二中体育館

一位 下川尻(南)

二位 津 町

三位 崩 山

四位 白土舟津

親は鏡なり

川尻町 横田 豊

お世話になれば、礼を言い、目上の人を尊び、自分のことは、自分です。この、ごくあたりまえの事が、最近の実社会において、欠けたように思えてなりません。

あたりまえのことがあたりまえとして通用しない、世の中では、いかに社会を明るくしよう。政治をよくしよう、と言ってみたところで、とても住みよい社会づくりは望めないと思えます。子供をもつ私達、今一度、じっくり考えたいものです。

先づ子供の学校で得た団体生活の教訓と家庭における、親子兄弟でしか得られない最も一日中で長時間接することのできる家庭生活面を、今一歩、大切に、現在の生活面を反省し、親子の対話、行動を、先づ、親から率先遂行し、無駄、無理なく、子供の成長を期待したいものです。

意義ある

三〇分

浦田上町

小沢ユキエ

子供達の小さい頃からの夢であった親子サイクリングを現在実現させています。自信満々の長男を先頭にまだ練習中の長女、守尾を母親の私が固めてさわやかな朝風を切って走ります。

交通指導を兼ね昨日は白土湖水、今日は島原城、明日は霊丘公園と時間の許す限り走り続けます。

職場をもって子供の相手の出来ない私にとつてたゞたんに健康管理だけでなく親子の心の交流にも一役果しているのではないかと自負しております。

「おかあさん、今日は何どこへ行こうか」、「今日はどの道を通ろうか」などと今朝も親子サイクリングで三〇分という限られた時間を大切に走り続けます。

畑

霊南町 吉田英子

幼稚園からの近道はつたかずらの繁った高い石垣づたいに石ころだらけの細道を駆け降りて畑の中をつつ走るのでした

雨が降るとはぜの突が垂れ下って路は増々狭くなるので祖母は

大きな蛇の目傘をすばめて六つの子を背に石ころだらけの道をいつも降りるのでした芋の葉の露で

兄元をぐっしょりにして祖母はもう孫の重さを計れない遠い世界の人となってやと平和の風の吹く空から

妻の若芽を踏むその小さな足で死の灰のあえぎの中でなおも立ち上るうとする

町並をどんな気持で見下ろしていたことか

それから六年

はぜの木は切り払われ祖母のことも遠い

思い出となり胸の中を

夢で一杯にした女の子は時々

魔法のパラシュートで背丈ほどの石垣から

畑の中へ降りてみるのでしたふかふかした地肌に

下駄の歯形をポックリ押しして生の讃歌にあふれた

その畑に初恋のほろ苦さなど知らぬ

はち切れそうな女の子が天に向って立って

いるのでした

いつしか女の子は 女になり

もうすっかり母親になって畑の中に咲いていた

そら豆の花の紫を何故か思い出すのです

そら豆の塩ゆでなどもう長いこと膳にのぼらない

今日此頃

小さな親切運動

有馬舟津

吉田扶美子

「小さな親切運動、私はこの言葉を今までに何度となく聞いてきた。でもこれを実行するのはなんと勇氣のいることだろう。本当に小さいなことなのに。」

これは人間としてあたり前のことである。それを運動としてあつかっているのは私たちが実行しないからであろう。人間としてあたり前にすべきことを呼びかけなければならぬ。それは本当に悲しいことだと思ふ。

著しい機械など技術の進歩に比べ、人間の心はどうであろうか。けっして進歩してはいない。かえって機械の発達していきなかつた時代の方が人間の心が豊かであつただろう。心にゆとりがあつただろう。しかし現代は違う。

それならどうしたら人間の人間としての心をとりのどせるか。最初から大きなことを自分一人でしようとしなくて小さなことから始めたらよい。小さな親切運動をして、それが手をつなぎ大きな輪にしたらよいと思ふ。

波

有馬舟津

川井啓久

連日の仕事につかれて、やっと一休みしようと思ったら子供に原稿用紙に書いてくれとせがまれました。何を書いたらよいかさっぱりわからずとまどいました。平素子供の教育も考えず、ただ仕事ばかりしている私共漁業者ですが、「波」ということに気づき一筆書く事に致しました。私共一家は中学二年の女の子を頭に、四年と二年の女の子三人を学校にやっています。私と家内は船で沖に行き漁業をやっております。

はじめのうちは子供達が淋しがつて、お母さん、沖に行くのはやめなさい、と言っておりましたが、近頃やっとう事をさくようになりました。近頃の学校教育はお父さんもお母さんも働かなくては子供の教育にはおいつかないのですよ、とよくいきかせこれも時代の波ですと話しあいました。

頑張れ子供

桃山 満尾久子

毎日起きなさいと言われなければ起きない私の子。それでもまだびくともしない。大人の私達でさえ、なかなか起きにくいのに、子供には無理もないと思うけど、絶対に起きなければならぬと思うのはいつの事だろうと思うと、本当につらい思いです。

学校へ行ったら先生の言う事をよく聞きなさいよと、毎日登校前には言い聞かせるけど、返事だけはする。時間中は本当に話を聞いているのだろうかと仕事をしながら不安でならない。仕事から帰ってみると何を遊んだのか、手足や洋服などはよごれている。時々男の子とも遊ぶらしい。かばんの中を見て、こごのノートなどを見ると、五重丸やかけをもらって来ている。私も忘れっぽい子供もお忘れっぽい。時々子供からおこられる時がある。すこやかに大きく育ってほしいと心から願う。

いとし子の
もう七時よの かけ声に
はっと目さます
まぶたは ねむそう

我が家の杉の木

坂下町 小林フミエ

ぼつんと庭の片隅に

一本 ヒマラヤ杉

真すぐに伸びて 鉢の中

きれいな葉をつけて

花バサミで、真を切る

伸びないように

切っても 切っても

伸びてくる

幼稚園の頃 クリスマスツリー

をつけるのに買って来た杉

こんなに伸びちゃって

我一人思う

子等よ すすすす伸びて

ほしい

ヒマラヤ杉のように

虹を見て

三年生になる女の子。お母さん虹よ、早く早く。あわてぬれた手を、エプロンでふきながら外に出て見る。本当にきれいな虹。大空に大きく半円を書いた様にきれいだ。たゞぼうぜんと思とれている。絵に書いた様だ。雨がやんだら虹になるの。子供が云う。「そうよ」。こんなに大きくきれいな虹、私生まれて始めて見た。七色の虹ってきれいな、虹の上を歩いて見たいと云う。目を細めてここにこ笑って見ている顔々々。子供が無邪気だなあと思顔をながめる親心。幸せがこみあげてくる。

俳句

元舟津 吉田ハチエ

かたつむり

少し動いて 雨を呼ぶ

花ふぶき浴びつつ

遠き日を想う

校庭

上浦田 上田平二

わらべらの まなびのいわの

わかざくら

千代にそだてよ

水と木

わすれな草

坂上町 桑田節子

ある朝、庭に出て見ると一輪のむらさきの花がかわいく咲いていた。あゝ何とかれんな花だろう。つい手折ってしまった。気が持たれられた。だがいしはし待てと一人つぶやきそっと話しかけてみた。気が持た不思議になんできた。来年もまた咲いてね、根強い道草さん。私のわすれな草さん。

親子ハイキング

体育部長 吉田重信

十一月四日、日曜日、今年初めての試みである「親子ハイキング」は、絶好の日和に恵まれ、皆さんの協力を得て楽しい一日となりました。参加された方々には、今年の良き思い出の一頁として残ったのではないかと思います。今度、参加されなかった方々も又の機会に、是非ふるって参加されます様、その日のエピソードなど綴ってみました。

初めての試みなので、五・六十人位は参加されるだろうと予想していると、どうしてどうして、一才半から七十才まで百五十人ばかり、カラフルな出で立ちの、お父さん、お母さん、おばあさん、子供達で、三小の校庭は、秋の花々が咲き乱れた様だ。

出発前からバレーやソフトボールでハッスルしているグループもある。育友会長さんの挨拶、注意事項の後いよいよ出発。裏門から出て、根松を通って行く。お稲荷さんのある道は、学生時代以来初め

て通ると云う人も多い。色づいた蔦かずら、取り入れ時の田んぼが朝霧の中で美しく、実りの秋が感じられる。柿の実が熟している。「ありゃ、柿んうれちよる。よう学校帰り、柿ばちぎり行きよったとんない。」と幼い日の思い出話しはずむ。親子そろって畑道を歩くのも又いいものである。平常神経をとがらせて車を飛ばす者にとつて、それは貴重な時間に思える。

目的地は市営サッカー場。途中で火花があがったと思つたら、そこでは撮影会があつていて、怪獣が来ていたので子供達は大喜びであつた。ライオン丸に、月光仮面、「月光仮面のおじさん」と子供達が呼ぶと、彼が「ぼくはおじさんじゃない。兄さんだ。」と云つた。小さい子供達は彼等と一緒に写真をとつて嬉しそうだ。全然子供が集まらない怪獣がいた。聞いてみると悪者らしい。大人達の方は、ソフト、パレー、と子供達をこのけで大いに楽しんでいる。秋の光が芝生に映えてまぶしい程だ。昼食は、一同、「にぎりめし、ちくわの煮つけ、つけ大根」である。運動した

後では、そのうまいことく細身のGパン等着て損したというAさん。

「帰る時間ですよ」と云うと「もう少し遊びたいよ」とだだをこねたのは大人の方でして、二小へ下りて来たのだが初めて来たというお母さん方も多い。「ジャンジャン」を見つけたHさん達、島原弁もおもしろかね。「ジャンジャン」が「あなたを愛してます」という風に聞えるよと大笑い。Fさん曰く「吉田さん、今日はほんて良かったばない。ゆうべ夫婦げんかばして、別々に家を出て来たばつてん、もう帰りにヤ仲なおりばして、一緒に帰りよつたない。ちくわん煮つけとつけ大根で済んだばない。仲人さんに頼めば酒一升持つて行かにゃんてない。」

ところで、我が家の一才半は、背中で昼寝を始めたのでリュックの二倍の重さはある。赤城の子守歌か子連れ狼というところ。子守ハイキングも又楽しからずや、である。



PTA文庫の
巡回について



左記の日程により第二回目の文庫を巡回いたしますのでご利用のほどお願いいたします。

町内	保管場所	期日
新山東	中尾利夫宅	12/5
新山西	松隈保吉宅	12/26
崩山	池田光安宅	1/16
坂上	隈部 純宅	12/5
坂下	坂本博幸宅	1/6

八幡下	本嶋幸男宅	12/5
八幡下	片山実宅	12/5
栄町	松本隆之宅	1/6
桃山	児島善子宅	12/5
霊南	吉田重信宅	12/5
姪子町	吉田和一郎宅	12/5
白土上	島 勲夫宅	12/26
白土下	原 一郎宅	1/16
浦田上	坂本政幸宅	12/5
浦田下	井上論吉宅	1/6
有・舟	塚野ミサエ宅	12/5
津町	牧 国義宅	12/26
元舟津	松本正勝宅	1/16
広馬場上	本多徳行宅	12/5
広馬場下	本多慶次宅	12/26
漢新地	大島政助宅	1/16
中組	北島鉄雄宅	12/5
姪子鼻	久保 亨宅	12/26
南風泊	松尾昭和宅	1/16
川尻	山本篤五郎宅	12/5
下川尻北	池田秀吉宅	12/26
下川尻南	荒木 孝宅	1/16

編集後記

皆様のご協力により二学期の「がんば」ができ上りました。大へん有難うございました。今後ともよろしく御願致します。

なお、さいごの町内は、めんどうですが、学校までご返却をお願いいたします。